

② 旧小守家住宅

■ 建造物名 旧小守家住宅【登録有形文化財建造物】

■ 所在地 犬山市大字犬山字東古券

■ 建物概要

【構造】・・・木造二階建

【建築年】・・・大正 12 年頃

【面積】・・・1 階 167.81 m²、2 階 156.44 m²（平面図より算定）

【外観】・・・平入、切妻造、棧瓦葺、桁行 12.9m、梁間 13.9m

■ 事業内容

【構造】・・・蟻害で腐食した柱及び土台を除去し、部材の差替えを行う。

■ 補助対象事業費及び交付予定額

事業費:561,330 円 補助額:374,000 円

■ 特徴

余坂の木戸前に位置し、建設時期については普請帳により大正 12 年 12 月に上棟されたことが分かる。二階正面側は当初は縁が無く、腰壁付の格子窓であり、この時代の犬山の町家の典型的な形式で建てられていた。犬山の伝統建築を受け継いだ大工の手になり、内部には当初材も随所に残されていて、材料も良質な建物である。

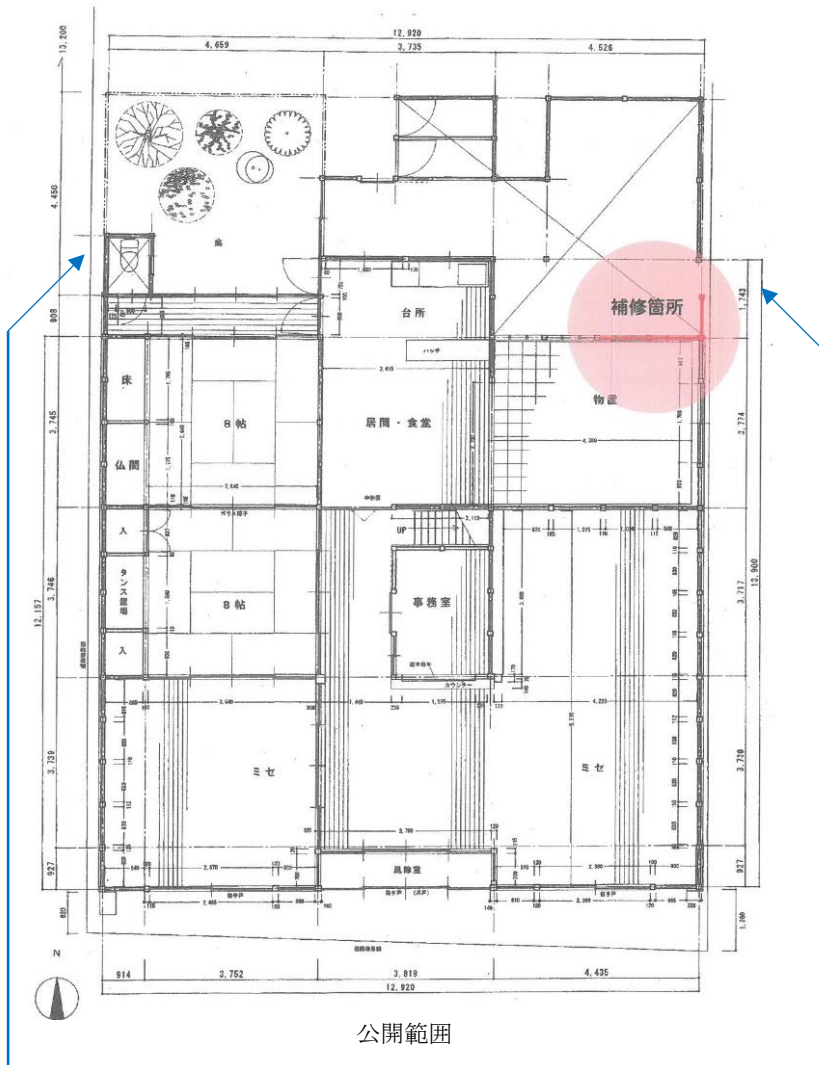


一階は手前二間半部分と東側の中央二間を低い床を張ったミセとし、正面中央二間分を半間後退させ風除室（履物脱ぎ場）として、ミセ部分はギャラリーとして活用している。西側奥は八畳室を二室並べ、北側に半間の廊下を配している。奥の八畳室は西側半間を床と仏壇としているが、当初は違棚であったという。正面中央の西側一間は背面側に通じる通り庭で、事務室は当初その北側の階段までの四畳室であり、階段はその北側に所在していた。その奥に食堂、台所を配し、東側は物置としているが、当初はこの部分に竈、台所があったという。

■ 着手前状況

物置北側（増築部分）に以前は浴室を設置していたとのことで、湿気が多かったと予想される。浴室が設置されていたためか、物置北東隅の柱から南側ギャラリーにかけて蟻害が見られる。

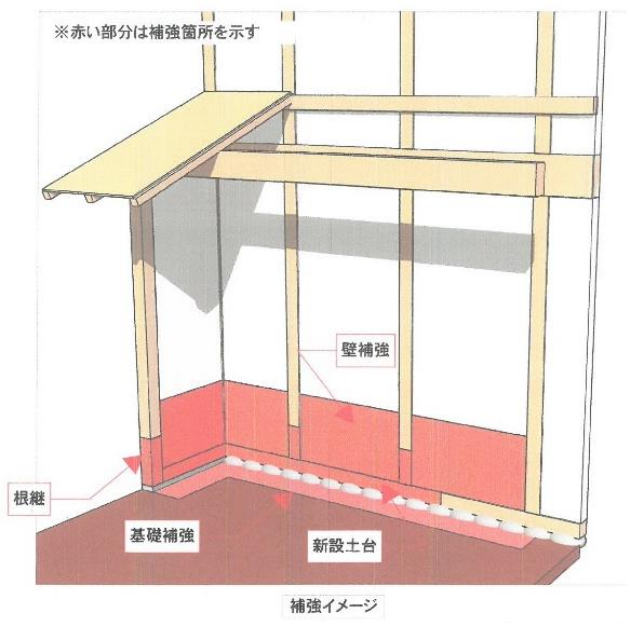
そのため蟻害の範囲を確かめ、その部分の部材を取り換える工事を行う。



旧小守家1階平面図

【補強方法】

- 柱・土台に絡む土壁を最下部貫まで撤去。ジャッキアップ。
- 現状の目視確認を行う。
- この時、B柱の南側の土台も確認する。
- 必要に応じてコンクリートで基礎を補強。
- 新設土台・柱の根継を行う。金物取付。
- 撤去壁の補修(根がらみを兼ねる)。



補強イメージ

山下一枝邸主屋補修工事

【現状】

この建屋北東角に伊勢湾台風被害後、縁側を解体し、在来風呂を設置されていた。在来風呂は現在解体されて、物置となっている。

A～C柱の根元、①～③土台が腐朽し存在しない。
旧縁側の桁を支えるA柱には、添柱がボルト締めされている。

①土台の基礎は長方形加工の御影石、②と③土台の基礎は丸形の自然川石。

